

すみだ郷土文化資料館だより

MIYAKODORI

みやこどり

みやこどり(ゆりかもめ)は、
すみだを舞台にした和歌に登場するなど
墨田区にゆかりのある鳥です。

すみだ
郷土文化
資料館
SUMIDA
HERITAGE
MUSEUM

第71号 2025年(令和7年)5月発行

ふるさととの出会い、ときめきへの旅。

すみだ郷土文化資料館

131-0033 東京都墨田区向島二丁目3番5号

☎(03)5619-7034 ☎(03)3625-3431

電話番号は正確に。

https://www.city.sumida.lg.jp/sisetu_info/siryoku/kyoudobunka/index.html

E-mail sumida-hm@city.sumida.lg.jp

■開館時間

午前9:00～午後5:00(入館は午後4:30まで)

■休館日

毎週月曜日(祝日に当たるときは翌平日)

毎月第4火曜日(祝日に当たるときは翌平日)

9月9日～11日(燻蒸期間・臨時休館)

■観覧料

個人100円、団体(20人以上)1人80円、

中学生以下、身体障害者手帳・愛の手帳・

療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を

お持ちの方及び介助の方は無料



宮入恵次郎画「浅草にて一逃げまどう母子」

企画展

東京大空襲80年—空襲被害写真と空襲体験画を見つめて—

会期：令和7年6月7日(土)～9月21日(日)

今年の8月15日を過ぎると、戦後80年となります。日本が国として戦争をしていない時間がまた一つ節目を迎えます。一方で、それがゆえに今、日本に暮らす多くの人は戦争を体験したことがなく、戦争を繰り返さずに、体験者から学び続けることは可能なのか、という大きな問いがより差し

迫った問題となってきています。

5月25日まで開催した企画展に続く今回の企画展では、同じ東京大空襲80年をテーマとしながら、当館を代表するコレクションである空襲体験画の再検討のほか、空襲被害を写した写真が、どのような体制のもとで撮影されたのかという、これまであまり顧

みられていなかった観点からご紹介します。

さらに区内での空襲犠牲者追悼の変遷や現状、区内に工場などがあった、誰もが知る有名企業の空襲被害などを取り上げます。様々な世代の方に、より身近に、より深く空襲について考えていただけますと幸いです。

■空襲体験画を見直す

当館と空襲体験画のゆかりを「みやこどり」のバックナンバーで見ると、7号(2000年2月発行、企画展「東京空襲～銃後の戦争～」の紹介)に、小林弘司さんの体験画が掲載されています。また、15号(2002年9月発行、企画展「被災を記憶する町―震災・空襲、そして復興へ―」の紹介)では、その後多くの体験画をいただいた、堀切正二郎さんの絵が掲載されています。

そして2003(平成15)年には広くマスコミ等を通じ、空襲体験画を募集しました。最も印象に残る体験を絵にしてほしい、絵の巧拙は問わないという条件でした。すると、96人から200点以上の絵が寄せられ、2004(平成16)年1月31日から3月21日にかけて、企画展「描かれた東京大空襲―絵画に見る戦争の記憶―」を開催しました。2カ月足らずの間に9000人以上が来館し、これまでの当館の最多来館者数を数えています。この後、空襲体験画の募集を続けながら、2005年度から3年続けて空襲体験画も交えた空襲展示が続き、当館のコレクションとしての知名度を広く獲得するに至りました。

2005(平成17)年には柏書房から『あの日を忘れない―描かれた東京大空襲―』として、体験画集が刊行され、121点が収録されました。さらに、2015(平成27)年には、当館図録として『描かれた東京大空襲 体験画図録』が刊行され、114点が収録されています。現在330点以上の絵があり、一部は整理を継続しています。その一方でほとんどの空襲体験画の作者の方々は鬼籍に入られました。

当館の体験画の特徴は、写真では残っていない、空襲被災時などを含めた、空襲下の多面的な様子が記録されていること。また、通常、学芸員が解説文を書くことが多いキャプションに、絵と共に寄せられた手記や聞き取りを元に、証言をベースにして絵に描かれた前後の状況を示した文章を添えることで、時に体験画と証言が混ざり合い、主張しあいながら、見るもの

に状況をイメージさせる効果と呼んだことなどが挙げられます。

広島・長崎の被爆者の描いた体験画は1974(昭和49)年にNHK広島・長崎が中心で収集が始まり、空襲でも広島や長崎をヒントに、大阪や静岡が1980年代に既に収集・公開を行っていました。

それから少し時間を経て、ようやく苦しい記憶と向き合うことができた人びとによって描かれた体験画群が2000年代に現れたのです。

これまで、当館では空襲体験画を糸口に、地域の復元を試みたり(2009年7月24日～9月23日の企画展「東京大空襲―一個の記憶・町の記憶―」)、先駆的な空襲孤児の展示を行ったり(2011年2月19日～4月24日の企画展「戦争孤児―東京空襲と残された子どもたち―」、2013年3月9日～5月12日の企画展「描かれた戦争孤児―孤児たちの心と表現―」)と、その価値を活かして研究・展示を続けてきました。さらに例年の常設展示や空襲体験画貸出キットの作成で、より多くの方に体験画を見ていただくようにもしました。そして、そのトラウマ的体験が絵や話として形を得ることで、次第に語れるものとなり、ある文脈を持った証言や絵画となっていくのではという形成過程の推察に至りました。

ここまでは2人の前任者によって果たされた成果でした。私が8年前に担当を引き継いだ時、すでに話のできる体験者は減少し、さらに加速度が増しているように感じられました。

新型コロナウイルスの流行で、休館を余儀なくされた際には、いくつかの資料を整理したり、再確認したりしましたが、特に空襲体験画には力を入れ、下絵や展示後に寄せられた資料などの存在を詳しく知ることになりま



堀切正二郎画「二葉国民学校講堂の壁」

した。それから、今後の空襲の実態解明やより一層の空襲体験画の活用のために何ができるかを改めて考えました。

今回は、美術史の研究者など、美術分野の専門家から助力を得て、その視角から、空襲体験画がどのように見えるのか明らかにしていただくことにしました。

美術の世界では、障がいのある方のアート作品(アウトサイダー・アートやアール・ブリュットなどと呼ばれる)への評価が定着してきています。アウトサイダー・アートは、「特に芸術の伝統的な訓練を受けていない者が制作した作品」を広く指す語としても用いられるようになっており、空襲体験画の作者も多くはこの範疇に入ります。会期後半のシンポジウムで詳しく検討する予定です。

また、当館としては、空襲体験画の証言としての側面をより重視し、今年2月からの企画展で学校の地下に設けられた市民防護室でお示したように、その証言と対応する資料の発見と突き合わせを深め、証言だけでは伺い知れない、実際の広さや設備などを補うことで、体験のない私たちが、空襲をリアルに考えるためのヒントを得て、体験の重みを感じることができるよう理解や継承の試みを続けていくほか、今後も新たな体験画の収集や、空襲体験画の作者の資料収集や研究を続けていきます。

■東部軍国防写真隊

今回のもう一つの大きな柱は、空襲被害写真です。空襲体験画収集以前の空襲イメージは、ほとんどこうした写真や焼け跡の動画に拠ると言っていると思います。最も知られている撮影者は、警視庁カメラマンだった石川光陽でしょう。当時の警視總監の命を受け、被災地を撮影、戦後もネガを守ったことが本人の著作や報道を通じ、広く知られています。また石川以外にも、この80年の間に、何度も東京の空襲被災写真が、「秘蔵されてきた貴重な写真」という扱いで報道により紹介されてきました。しかし、例えば広島で原爆投下後のキノコ雲を撮影した人は以前から調査され、知られていますが、東京の空襲では、誰がどうして撮ったかはあまり注目されてきませんでした。2000年代に入り、ようやくそうした研究が進む中で、東京の空襲被害写真は、マスコミが軍の許可のもと撮影したものと、警視庁カメラマンの石川が撮影したものが圧倒的に多いことが分かってきました。一方、地方都市などに多い写真館の主が撮影した事例は珍しく、今年2月からの企画展で展示した工藤写真館の工藤哲朗の写真、特に間近で空襲による火災を撮影した写真は貴重なものでした。

それでは、具体的にはどのようにマスコミと軍は関係していたのでしょうか。1942（昭和17）年4月18日の

B-25による日本への米軍の初空襲後、検閲はより強化され、どこがどのように被害を受けたかは具体的には報道されず、広い被害状況を示す写真も掲載されないことが改めて通知されました。それまでも、既に検閲があったため、どこで何があったかが分かるような形の報道は軍事関係では難しく、軍の公式発表を基本とする形になっていました。

その後、戦局の悪化の中で、1943（昭和18）年11月19日に、東部軍国防写真隊（以下、国防写真隊）が編成されました。これは東日本の防衛を任務とする東部軍司令部の命令下で、空襲時に出動して空襲状況などを写真に撮り、資料とすることが任務でした。写真は各社が現像して、紙焼き1セットとネガは軍に提出、各社には紙焼き1セットが残り、軍が許可した写真のみ紙面で使うことができました。

隊員とされたのは、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、同盟通信（現在の共同通信と時事通信の前身）のカメラマンとニュース映画を製作していた日



『写真週報』第364・365号合併号掲載の写真

本映画社の撮影班で、発足時で70人でした。その後、1944（昭和19）年6月2日に、東京新聞、日本産業経済新聞（現在の日本経済新聞）、日本写真公社の3社も国防写真隊に参加しています。

国防写真隊は、1943（昭和18）年11月27日（土）に行われた防空訓練に初出動して、同日の『毎日新聞』夕刊に記事と写真が掲載されました。

国防写真隊の存在は、当時の紙面以外では、同盟通信の社史である『通信社史』（1958年）などにわずかに記述されていますが、他の社史ではほとんど記載がありません。

財団法人日本写真公社は、前身が財団法人写真協会といい、戦時下に情報局の指示の下、政府の広報グラフ誌『写真週報』の編集・発行を行っていました。日本写真公社国防写真隊撮影の写真の一部は、元情報局員の遺品から発見され、作家で、東京空襲を記録する会の早乙女勝元が受け取りました。

現在は東京大空襲・戦災資料センターに所蔵されています。

敗戦とともに、当局の指示のもと毎日新聞以外の新聞社は自社の写真



吾嬬製鋼所の空襲後の写真（東京大空襲・戦災資料センター提供）

やフィルム、ガラス乾板を廃棄・焼却しました。先に述べたように、社史での言及も少なく、戦後写真が発見された際にもカメラマンが名乗り出ることはありませんでした。

今回は国防写真隊として撮影された写真を紹介するほか、日本写真公社として撮影した写真と『写真週報』に掲載された類似の写真など、実際の使われ方なども紹介します。



『写真週報』第249号表紙の東条英機の写真 撮影：内山林之助

■区内に工場などがあった有名企業の空襲被害

明治時代半ば以降、戦後の昭和40年頃まで墨田区は工業地域として発展し、現在でも優れた技術を持つ中小工場があるモノづくりの町として広く知られています。誰もが知る有名企業でも、過去には墨田区内に工場や施設を設けていたところは多くあります。例えば、衛生商品関係では、現在もある花王だけでなく、ライオンや資生堂、鐘紡、現在もブランドが残る薬用せっけんミューズを開発したミツワ石鹸を挙げることができます。鉄道では、東武鉄道は現在も区内に本社を置いています。以前は京成電鉄も区内に本社がありました。

現在の区役所がある場所は、明治以来サッポロビールの東京工場、戦後はアサヒビールに引き継がれ、その後工場が撤去されると共に、アサヒビール本社と墨田区役所、リバーピア吾妻橋ライフ

タワーができました。現在オリナス錦糸町がある場所は、1990年代まで精工舎（現在のセイコーグループ株式会社）の工場があり、時計を作っていた場所でした。

長く工場が置かれていたということは、1923（大正12）年の関東大震災や東京大空襲でも被害を受けたり、救援拠点になったことを意味します。今回は各社のご協力と貴重な資料でその空襲被害の詳細をお示しします。

■空襲100年、戦後100年に向けて

戦争体験者がますます少なくなるのはやむを得ないことです。一方で、現在の世界情勢はますます厳しく、戦争や災害も収まるどころか激しくなり、未来の展望はなかなか開けません。

今回の展示では、ここまで上げたほかに、区内の戦争遺跡の紹介と、空襲犠牲者追悼の変遷や現状をご紹介します。7月には2階で常設展示している空襲体験画の展示も更新します。また、月ごとに関連イベントを開催し、様々な角度から戦時下や空襲について身近に感じ、考える機会を提供します。

体験者や遺族の調査が可能なうちに、少しでも空襲の実態解明を進める当館の歩みはこれからも変わりません。今後とも証言や情報、資料の提供などのご協力をお願いします。

（学芸員 石橋 星志）

■ 関連イベント ■

証言映像上映会

当館製作「スミダSGEP」の証言映像の上映
＋スミダSGEP『戦争の記憶の一片を集めて』上映

内容：令和6年度に製作したスミダSGEPの活動の証言映像と、戦後75年に区民によって製作された戦争体験証言映像の上映会

コメント：スミダSGEP

日時：6月14日（土）13：00～

講演会

「戦争の記憶との向き合い方について考える
—東京大空襲死者の慰霊・追悼行事を通して—

講師：木村 豊（大正大学人間学部准教授）

内容：空襲被災地の町会などの慰霊・追悼行事の研究成果を紹介する

日時：7月12日（土）13：30～

体験者の話を聞く

空襲体験画ギャラリートーク

※内容の詳細はホームページをご覧ください

講師：空襲体験者

日時：8月2日（土）13：00～

シンポジウム

「空襲体験画を美術史の視点で見つめなおす」

コメント：北原 恵（大阪大学名誉教授）

パネリスト：武居利史（美術評論家）

石橋星志（当館学芸員）

日時：9月6日（土）13：00～

詳細はこちらでご確認ください

すみだ郷土文化資料館ホームページ➡

